

令和6年度 学校関係者評価委員会からの報告を受けて

桜咲く深緑の学び舎
世田谷区立松沢中学校
校長 山村 恵子

1 生徒が自らの手で未来を拓き、夢を育む学校

1 「主体的・対話的で深い学び」「探究的な学び」の推進

- ▶ 「先生は、課題について、自分で考えたり、友達と話したりする時間を授業の中で取っている。」
→ (生徒) 肯定的評価 85% (前年比▲-7%)
- ▶ 「授業では、考えたことを話し合ったり発表したりする機会がある」
→ (生徒) 肯定的評価…86% (前年比▲-4%)
- ▶ 「先生は、映像やタブレットなどのICTを活用し、わかりやすい授業をしている」
→ (生徒) 肯定的評価 88% (前年比▲-4%)

・グループ学習や、ICT（ロイロノート）などを活用して個人の意見をクラス全体で共有し話し合う活動、ICT機器を活用した授業を展開し、各教科で工夫しながら進めてきた。学習指導についての全質問項目に置いて(生徒) 肯定的評価が下がっていることを真摯に受け止め、より学習効果が期待される授業づくりに向けて、言語活動を基盤とした対話的な学び、タブレット端末やデジタル教科書等ICT機器を効果的に活用するための教材研究や準備を進めていく。

2 系統的、計画的なキャリア・未来教育の推進

- ▶ 「将来の生き方や進路について考えさせられる授業がある」
→ (生徒) 肯定的評価 62% (前年比▲-17%)
(保護者) 保護者肯定的評価 60% (前年比▲-3%)、分からない率 27%

・キャリア（進路）学習については、どの学年も積極的に外部人材を活用するなど工夫しながら進めていたが、今自分たちがどのような目的のために何を行っているのかという意識付けが弱かった。学習進路部が中心となって、各学年で行う活動の内容や方法等を学校全体で共有し、3年間を見通した、系統的、計画的なキャリア教育を推進していくことが課題である。また、キャリア教育の進捗状況を丁寧に保護者に伝えていくことで、キャリア教育に対する理解を得ていくことが必要である。

- ▶ 「私はキャリア・パスポートに書いた目標について考えて行動している」
→ (生徒) 肯定的評価 65% (前年比▲-6%)

・本校は独自に「NORTY スコラ手帳」を生徒一人一人に持たせ、キャリアプランニング能力を育むべく取り組んでいる。「NORTY スコラ手帳」とキャリア・パスポートの使い分け、実施の意図や目的を教職員で今一度確認し合った上で、丁寧に生徒たちに伝えていくことが必要である。

互いを認め合い協働し、一人一人に寄り添った温かい学校

1 教育相談機能を充実させる。

- ▶ 「先生たちは相談しやすい」（生徒）肯定的評価→64%(前年比▲-9%)

・1, 2年生対象に生徒が話したい教員を選んで面談を行う「アイアイタイム面談」は、生徒の満足度は98%と大変高く、教職員からも「生徒の意外な面を発見することができた」等の感想が寄せられた。ただ、いつでもどこでも生徒が気軽に教員に相談できるような雰囲気を全校体制で醸成していくことが必要である。

- ▶ 「本校は、子どもや保護者が相談しやすい」（保護者）肯定的評価→72%(前年比△+1%)

・本校の教育相談体制について、平素の傾聴姿勢の振り返りや、「子どもに向き合う時間」等の確保について再度見直しをはかる。子どもたちをはじめ保護者の皆さまにとって「頼りになる深沢中」をめざす。

2 道徳の授業や人権教育を通して、生徒自身が多様性や命の大切さを理解し、尊重する豊かな心を育む。

・いじめ防止、障害者や外国人に対する差別意識を解消する学習を多方面から積極的に進めたが、教員の情報共有が不十分な側面もあった。引き続き「連絡・報告・相談」を徹底し、いじめの予防や早期対応、解決に向けた対応を組織的に進めていく。

・「特別の教科 道徳」では学年ローテーションを実施し、いじめや人権問題など様々な題材を取り上げるとともに、他の生徒の考えを知り価値観を広げるために、授業の『振り返り』を大切にしたい。今後も、あらゆる角度から子どもたちの心を揺さぶり、「特別の教科 道徳」を継続的に進めていくことで心の教育を進めていく。

3 生徒・保護者・地域と連携し、信頼と誇りのある学校

1 生徒指導の充実

- ▶ 「私は、学校での過ごし方やルールについて考えて行動している」→（生徒）肯定的評価…92%

- ▶ 「私は、先生が指導した学校での過ごし方やルールについて理解できる」

→（生徒）肯定的評価…79%

学校のルールや指導方法などは、「ダメだからダメ」ではなく「なぜダメなのか理解して行動すること」が大切である。したがって既述した二つの質問の肯定的評価の差が縮まることが理想である。指導のブレがないよう教職員で共通理解を図りつつ、生徒たちが自らの学校生活を省みたり考えたりできるような心に響く指導を進めていく。

- ▶ 「先生は生徒の意欲を大切にしている」→（生徒）肯定的評価…82%（前年比▲-4%）

・これからも、生徒の意欲を大切にしたい学級活動や生徒会活動、学校行事、総合的な学習の時間、部活動などを意図的、計画的に行うことで、生徒の自治意識を高める教育を推進する。

- ▶ 「学校生活が楽しい」（生徒）肯定的評価→86%（前年比△+1%）
- ▶ 「わたしは思いやりの心をもって行動している」

→（生徒）肯定的評価…89%（前年比△+3%）

・肯定的評価は微増、多くの生徒たちがお互いを思いやり、前向きに学校生活を送っていると評価していることは、何よりも素晴らしいことである。その要因のひとつに、学校行事の充実があげられる。体育祭や展示発表会（舞台の部）での合唱コンクール、各学年の行事を計画的に実施したことで、生徒の満足度はとても高かった。（「学校行事は楽しい」と答えた生徒肯定的評価→91%）

行事に対する意識付けと取組み方を工夫し、行事を通して生徒が仲間との連帯感や自己有用感を感じられる取組みを展開していく。

2 地域や家庭と連携した活動の推進

- ▶ 「本校は、地域の活動などに協力的である」→（保護者）肯定的評価…63%
- ▶ 「地域の人や施設を教育活動に活かしている」→（地域）肯定的評価…72%

・職場体験学習の受け入れ先事業所との連携（2学年）、地域行事への参加（吹奏楽部、茶道部）など、今後も積極的に地域や近隣大学の人材を活用し、地域活動の機会をつくっていききたい。

- ▶ 「本校はホームページやメールなどで、保護者に情報を提供している」
- （保護者）肯定的評価…88%

・ホームページに加えて、『すぐる』により、学校からの紙ベースの文書や提供したい情報を保護者に積極的に直接配信している。必要な情報をタイムリーに発信することができた。今後も学校からの適切でスピード感ある情報発信を行っていく。

- ▶ 「本校は避難訓練やセーフティ教室などで、子どもに安全に関する指導をしている」
- （保護者）肯定的評価…78%（前年比▲-4%）

- ▶ 「自然災害の対応を子どもや保護者に提供している」
- （保護者）肯定的評価…69%（前年比△+2%）

・学校が安全で安心な場所であるということ、不測の事態が起こった時に迅速かつ臨機応変な対応をとり生徒の安全を確保することは、教育活動を進めていく上での基盤となる。

今年度も、避難訓練やセーフティ教室、日々の教育活動の中で生徒たちに安全に関する指導を進めてきたが、保護者からの肯定的評価が大幅に後退したことを重く受け止めたい。

『令和6年能登半島地震』の発生により、保護者や生徒の防災・安全指導に関する意識も高まっている。自然災害が発生したときの災害対応マニュアルなどをホームページに記載し、広く周知するなど、より分かりやすく保護者に伝えていく。同時に、本校の安全指導方針を分かりやすく提示し、必要とすべき情報は正確かつ迅速に発信していく。

【来年度に向けて】

学校関係者評価の精度をあげるためにも、保護者、生徒、地域、教員からの評価アンケートの回収率を上げるための工夫を今後も行っていく。